



九州大学大学院芸術工学研究院附属
応用生理人類学研究センター
PHYSIOLOGICAL ANTHROPOLOGY RESEARCH CENTER



E-Mail



Web

応用生理人類学研究センターとは

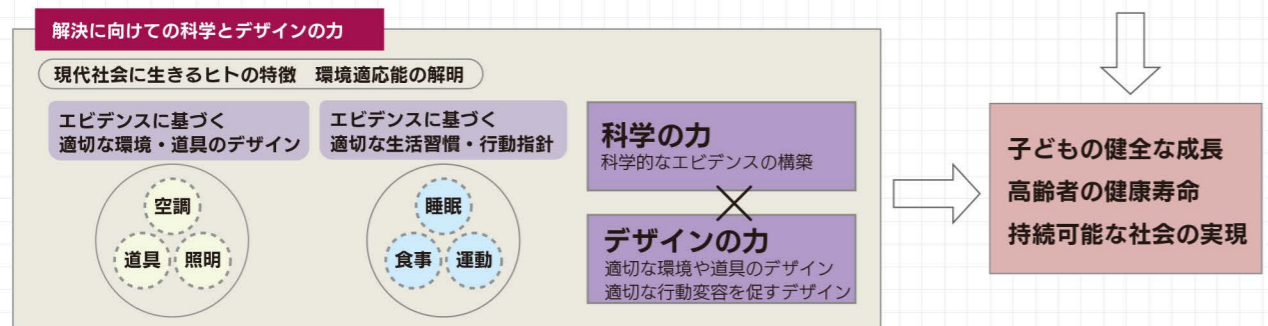
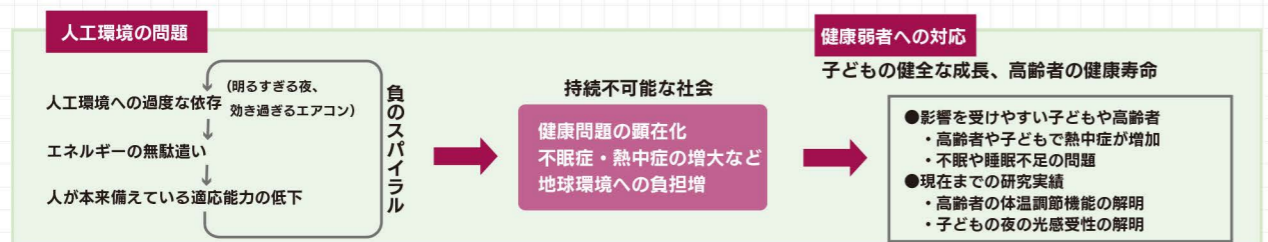
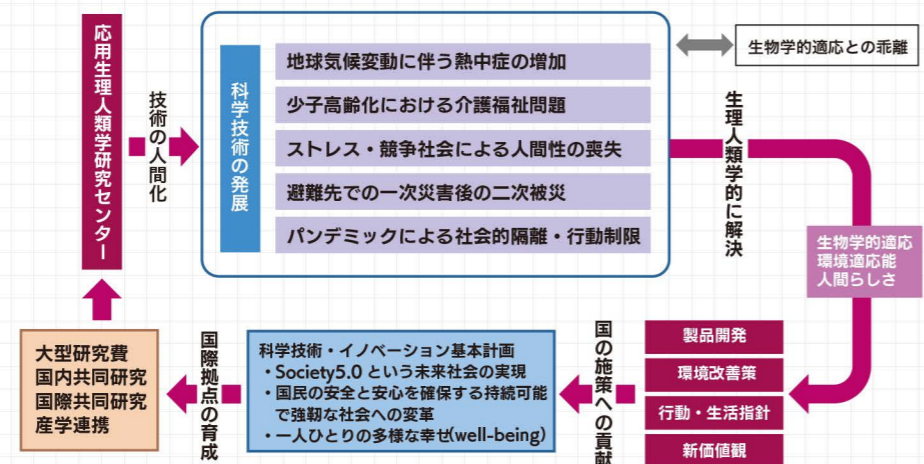
芸術工学が標榜する「技術の人間化」を推進するためには、先ず人とは生物学的にどのような特性を有するのかわかる必要があります。そのため生理人類学は様々な実験手法でヒトの基本的な特性を探ってきました。

今日、地球気候変動や少子高齢化など様々な問題が顕在化してきました。これらの問題に対して芸術工学あるいは生理人類学は解決策を提案しなければなりません。そこで私共は様々な組織と連携して具体的な解決策を探るために当センターを設置しました。連携先は九州大学内に留まらず、広く産学から海外の研究機関まで含まれます。当センターの4つの部門の内容を御理解の上、皆様からの積極的なお尋ねもお待ちしています。

設立背景

技術・情報の飛躍的革新は生活を一見便利で快適にしているが、一方でヒトが生き残りをかけて生物学的に適応してきた環境との乖離はますます大きくなり、その歪みはすでに人の健康リスク等の問題を引き起こしています。これら問題を解決するために必要となるヒトの生物学的適応に関する基礎研究は九州芸術工科大学設置以来45年にわたり生理人類学分野にて行われてきました。この基礎研究を土台とし現代社会が抱える喫緊の諸問題を解決するために、応用研究に特化した研究組織が必要です。

近未来に解決すべき問題

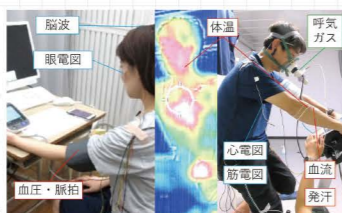


2つの相談所

研究方法の多分野や社会への展開を目指します。

生理測定・評価相談所

人間の生理機能の測定や評価に関する相談を受け付けます。生理値の測定時のテクニックや必要機材、得られた生理値からの解析方法、生理反応の評価などの相談や提案を行います。お気軽にご相談ください。



行為分析相談所

人間の行為の分析に関する相談を受け付けます。主に映像や観察からの四肢の動きや表情の分析を行います。その計測方法や分析方法・社会的な解釈などの相談や提案を行います。まずはお気軽にご相談ください。



「適応」、「生活」、「感性」、「レジリエンス」4つのアプローチ

本センター設立に当たって、人間をとりまくさまざまな要因のうち「適応」、「生活」、「感性」、「レジリエンス」という4つのキーワードを軸を設定して、それぞれ「環境適応」、「アクティブライフ」、「ヒューマニティー」、「レジリエンスデザイン」の4つの部門を設置し、現代人そして未来の人類にとってよりよい環境・生活を提案する事を目指しています。

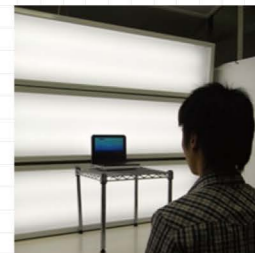
環境適応部門

集団ごとの生物的資質の特徴を明らかに

真に快適で持続可能な生活環境・生活習慣を提案

現代社会で暮らす人々は、多くの時間を快適と思える人工環境の中で過ごしています。一方、これらの人工環境が私たちの健康に負の影響をもたらしている可能性も指摘されています。

本部門では、少子高齢化、地球気候変動など将来予想される問題を考慮しつつ、様々な環境における集団(姓、年齢、遺伝子型など)ごとの生物的資質の特徴を明らかにする研究を進めています。これらの科学的成果を基に、Society5.0で提唱される近未来社会における人間にとって真に快適で持続可能な生活環境・生活習慣の提案を目指しています。

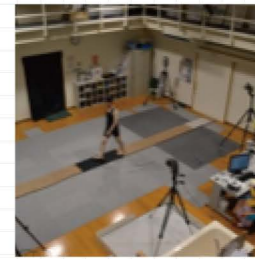


アクティブライフ部門

心身機能特性を明らかにし、科学的に把握

アクティブな生活へと導く方策を提案

ヒトの人間性に関する研究を行っています。ヒトの人間性は、形態や生理機能と同じように人類の進化の中で様々な環境に適応しながら獲得されたものと言えます。本部門では人間性の一部である感性をテーマにしています。感性とは何かを感じることでできる力と言えます。また「うまく生きる」ための「こころの働き」として捉えることもできます。本部門では様々な環境で生きるヒトの感覚特性の多様性やそこから生まれる感情、共感能力、コミュニケーション能力、創造性などを、人間の発達や進化の視点も含め、行動科学的、神経科学的、遺伝学的方法を用いて探究し、人間らしく生きることのできる社会の構築に寄与していきたいと考えています。



ヒューマニティー部門

人間性の科学的な探究

感性豊かで、感動に溢れた社会の構築

ヒトの人間性に関する研究を行っています。ヒトの人間性は、形態や生理機能と同じように人類の進化の中で様々な環境に適応しながら獲得されたものと言えます。本部門では人間性の一部である感性をテーマにしています。感性とは何かを感じることでできる力と言えます。また「うまく生きる」ための「こころの働き」として捉えることもできます。本部門では様々な環境で生きるヒトの感覚特性の多様性やそこから生まれる感情、共感能力、コミュニケーション能力、創造性などを、人間の発達や進化の視点も含め、行動科学的、神経科学的、遺伝学的方法を用いて探究し、人間らしく生きることのできる社会の構築に寄与していきたいと考えています。



レジリエンスデザイン部門

人間の歪みを跳ね返す力の抽出

生理人類学によるストレスの軽減

人間の様々なストレスに対して「歪みを跳ね返す力」がレジリエンスで、極度に不利な状況でも、正常な平衡状態を維持できる能力を言います。近年、自然の災害が多発し、その度に被災者が発生しています。この第一次被害後に体育館や公民館等の公共施設で集団生活を送り、その2、3か月後に仮設住宅に入居されることとなります。この間に被災者は心理的・生理的ストレスを受ける場合が多々あります。生理人類学はこのストレスを軽減するために貢献すると考えています。



関連実験施設

環境適応研究実験施設

環境適応研究実験施設は、九州大学大学院芸術工学研究院に設置された特殊実験施設(総床面積744m²)で、気圧、温度、湿度、気流、照度、水圧等を広範囲に制御できる人工気候室9室からなります(内2室は別棟)。



居住空間実験住宅

平成20年に完成した居住空間実験住宅(床面積160m²)は、二階建ての回り廊下付で、住宅内日常動作(入浴動作、排泄動作、炊事動作、歩行動作等)の3次元動作解析や、実生活(入浴、睡眠、食事、団楽等)時の生理反応測定が可能です。

